

## 令和4年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

### 令和5年度 取組目標とその方策

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育活動 (教務)	行事内容の精査と円滑な実施	A, B週を含めた教職員会議等の会議や行事の実施曜日について検討をしていく。また、外部模試を精査し、慣例にとられるのではなく経費や授業時間確保という観点も踏まえた実施の必要性を考えていく。	行事予定編成会議を通して各学年・部署等と調整をしていく。また、コロナ禍を踏まえて柔軟な対応ができるよう年間を通して行事内容を見直していく。
教科指導 (教務)	新学習指導要領への移行期間における円滑な業務運営	年度当初の時間割の設定において特に新たなカリキュラムが円滑に実施できるように最善の注意を払う。教科主任会議や通信制課程との連携を密にとり、全日制課程だけでなく通信制課程においてもカリキュラムの実施については年間を通して確認していく必要がある。	教科会・分科会等で適宜、確認・修正をしていく。外部研修への参加を促していく。
学校生活への配慮 (生徒指導)	①あいさつの励行	生活の基本であるあいさつをきちんと行うことで基本的な生活習慣の礎としたい。そのために我々教員が挨拶をしっかりと行い生徒の手本となる必要がある。また、生徒会や風紀委員会等生徒のあいさつ運動も活用していく。	年間を通して実施していく。
	②端正な服装頭髪の徹底	コースや学年間で温度差がなく、同じスタンスでの指導が出来る雰囲気作りと教職員会議等での状況共有を行っていく。	新入生ガイダンス年間を通して実施していく。
	③いじめの根絶	いじめ防止対策室・教育相談部との連携を図り、いじめの要因の早期発見・早期対応を行い、大きな問題に発展しないように努める。SNS使用のルールづくりを促すと共に、情報モラル教育を要所要所でやっていく。	新入生ガイダンス年間行事予定表に準じて実施する。
	④社会のルールやマナーの遵守	登下校における問題点を週報や打合せで随時発信し、担任がHR等での継続的な指導を行うことが出来る環境づくりに努める。ルールやマナーを守り安全に登下校できるようにし、保護者に対しても送迎の自粛を促していく。 自転車通学者には引き続き、保険の加入を必須とする共に、自転車安全点検及び通学安全指導会を実施する。 学校内外におけるあらゆる場面での立ち振る舞いについて、他者の立場になって考え行動できるよう促す。	教育講座 自転車安全点検 年間行事予定表に準じて実施する。
生徒会・部活動 (生徒指導)	生徒会活動や委員会の活動において、生徒が主体的な活動ができるようにする。また、そのように感じることができるようサポートする。	【生徒会】 コロナ禍からの脱却を踏まえ、あいさつ運動、生徒会広報の作成、爽やかマナーアップキャンペーン、NU祭生徒会サミット、東日本大震災復興支援の物品販売、クリーン作戦の運営など、従来から行っていた活動の再開を検討していく。その際、これまで以上に生徒会が主体となって活動できるような仕掛けを考えて展開していく。 【委員会活動】 ここ数年、各委員会ごとに日時や内容といった計画を立て活動している。過去の活動状況を踏まえ、例年通りの学校行事での活動を目指す。 【クラブ活動】 部活紹介ムービーや本校HPの部活動紹介を活用し、クラブ加入状況の向上を目指し、積極的に働きかけていく。また、活動状況や大会結果などを随時発信するよう心がける。 【応援活動】 野球応援・春高バレー応援をはじめとする各種応援活動・壮行会に、生徒会、応援部、チアリーディング部、吹奏楽部を中心に多くの生徒を巻き込み、愛校心を育む活動に積極的に取り組む。	各委員会毎に計画に沿った日・内容で活動する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
進路指導	① 日本大学付属推薦への適切な対応	基礎学力到達度テスト対策室や、コース・学年との共通認識のもと緊密に連携して指導にあたる。大学からの情報は、通知され次第速やかに学年会や教職員会議で周知し、教員間の認識に齟齬が出ないように努める。推薦審査会や調査書の作成にあたっては、教員負担の軽減も図りながら、迅速かつ確実な出願に努める。家庭との意思疎通を十分に図りながら、生徒・保護者にとって満足度の高い進路選択となるよう尽力する。通信制課程在籍の生徒の増加を鑑み、より一層、緊密な連携を図る。	日本大学からの情報はその都度伝達していく。 教職員へは、学年会・教職員会議で情報を伝える。 保護者・生徒へは、懇談会・面談を通じて詳細に伝えていく。
	② 国公立大学、難関私立大学合格者数の増加	各大学の入試情報を積極的に収集し、国公立大学入試対策室、コース・学年への提供に努める。特に、地元国公立大学とは連携を密にし、オープンキャンパスや入試説明会、研究室体験などへ生徒・教員の積極的な参加を促す。学校推薦型選抜や総合型選抜を有効に活用するために、早期に推薦入試対策を実施する。総合進学コースの一般入試受験者への進路指導・学習指導の強化も図っていく。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。
	③ 調査書、進路統計、各種調査報告等の適切な処理	学習指導要領の改訂に伴う調査書の様式変更を視野に入れ、情報収集と対策の検討に努める。調査書作成等については、性格・確実を第一に、日程や手続き等の手順を精査し、作業の効率化と負担軽減を図る。その一方策として、過去の推薦書や調査書、志望理由書の文例などを参考資料として共有し、作成書類の質的向上と作業の効率化を図る。必要かつ有効なデータを、適切な時期に提供することを念頭におき、進路統計や各種報告書の作成にあたる。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。
	④ 各種講演会の開催	生徒の実状やコース・学年の意向に十分配慮し、生徒の進路実現に資する講演会や講座を、適切な時期に開催する。父母と教師の会の各支部主催の進路講演会については、保護者のニーズに応えられる情報を過不足なく提供することに努め、本校の受験指導への理解と信頼を深める。	年間行事予定及び大学入試スケジュールに沿って実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
体育施設	教職員及び生徒の安全管理	定期的に施設の点検を行い、破損箇所が見つかった場合は、事務局と連絡をとり補修・交換を直ちに行う。 また、昨年度に引き続き破損箇所を見つけるだけでなく、「どうすればより良い活動ができるか」を考え、怪我や事故のない施設を目指していきたい。 右韮桜グラウンドは、定期的な整備の甲斐があり良いコンディションであるが、依然として芝がはがれると足をとられ怪我をしてしまう可能性があり、季節もみながら年間を通して整備できるように点検する。	事務局担当者と連携をして、年間通して施設を見回り確認管理をする。危険なところが見つかり次第、直ちに事務局担当者に連絡して修理をお願いする。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
保健衛生	生徒および教職員の健康保持と健康管理能力の増進	・年間計画に基づいて、生徒教職員の健康診断や検診の実施。その結果により専門医への受診を保健室から勧めていく。 ・教職員のストレスチェックやカウンセリングを行い、心的負担を軽減させる。 ・教育相談や保健室で得られた生徒情報を共有し、生徒対応に活かす。 ・新型コロナウイルス感染症について、学校全体で情報を共有し、更に感染予防対策を強化していく。	年間計画を通して実施。
	教育環境の保健安全の確保	・衛生委員会での問題点を事務局との連携によって、施設・整備の改良・改善を重ねていく。 ・生徒の心身の発育発達を促す環境づくりに配慮する。	年間を通して実施していく。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
教育相談	生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する。	①新入生に対する教育相談ガイダンス（構成的グループエンカウンター）およびクラス替えをした新2年生に対する構成的グループエンカウンターを実施し、新生活の円滑なスタートを援助する。 ②「学校不適応調査」（年6回）を実施する。 ③「高校生活に関する調査」（年3回）に教育相談に係る項目を設け、生徒の状況を把握する。 ④スクールカウンセラーの来校日を原則毎日とし、カウンセリングを随時実施する。 ⑤本校の教育相談体制を保護者にも理解して頂き連携を図る。 ⑥必要に応じ、特別支援教育の個別指導計画を立案する。 ⑦スクールカウンセラーと連携し、不適応生徒への担任の対応を支援する。 ⑧教育相談部会を定期的に開催し、教育相談部員、養護教諭、学校カウンセラー、学年主任、生徒指導部主任とで不適応生徒の状況をその都度共有する。	①4月に実施 ②5・7・9・11・1月・3月に実施 ③5・10・1月に実施 ④随時実施 ⑤3月（新入生登校日）・5月（クラス懇談会）等での実施 および「新入生ガイダンスブック」への掲載・HPでの案内 ⑥⑦必要に応じて随時実施 ⑧毎週実施（原則週に2回）

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
いじめ防止対策	いじめの未然防止	①生徒集会の機会を用い、全校生徒に対していじめ防止の講話を行う。 ②「いじめの根絶」という全校共通の生活目標を4週に1度掲げ、担任からの講話を行う。 ③「ネットモラル勉強会」を入学直後の1年生対象に実施し、保護者にも内容を共有することで理解を求める。 ④新クラスとなる1・2年生に対して教育相談部と連携した構成的グループエンカウンターを実施し、望ましい人間関係作りを支援する。 ⑤夏休み明けに「いじめ防止対策強化月間」を設け、学年の実情に応じたいじめ防止の取り組みを学年主体で実施する。	①各学期一度 ②4週に一度 ③4月 ④4月 ⑤9月
	いじめの早期発見	①全教員が「いじめ早期発見のためのチェックリスト」を常時携行し活用する。 ②生徒対象としてアンケート調査を年3回実施するほか、生徒には二者面談時に、保護者には三者面談時に聴き取り調査を行う。 ③教育相談部と連携して相談受け入れ体制を整える。	①随時 ②5月、10月、1月 ③随時
	いじめへの適切な対応	①把握した事案に対しては、いじめ防止対策室が組織として調査・認定・対応策検討を行い、担任・顧問を支援することで特定教員による抱え込みを防ぐ。 ②被害生徒の支援を最優先しつつ、加害生徒の支援も行う。 ③関係保護者と情報を共有し、家庭における支援・指導を要請する。 ④重大事態が発生した場合は県に報告し、外部有識者の協力も得て対応に当たる。また、犯罪行為の場合は警察とも連携する。	①②③④随時
	いじめの再発防止	①事案に応じた再発防止策を検討し、その実行を確認する。 ②発生した事案を全教員が共有し、同種の事案の発生を防止する活動に繋げる。 ③いじめ解消については、「3ヶ月止んでいること」「被害生徒の心身の苦痛がないこと」を基準として判断する。	①②③随時
	教職員の共通理解	いじめ問題に対する教員の意識を向上させ共通理解を深めることを目的として、定期的な問題提起や情報提供を行う。	毎月1度

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
図書	レファレンスブック（参考図書）の見直しを行う。	①所蔵のレファレンスブックについては、利用頻度の高い分野（テーマ）から優先的に見直しを行う。専門分野の教員に相談およびリクエストを募る。②不足している分野や探究学習に必要な資料を購入する。難易度別に用意し、生徒が利活用しやすい資料を揃える。③古いレファレンスブックは生徒に誤った情報を伝える恐れがあるため、入れ替えと書庫への移動を行う。	年度当初より取り組む
	書誌情報（資料を特定するための情報）の整理を進める。	①書誌を作成する際は、各校（土浦・岩瀬・中等）の所蔵を確認し、重複を防ぐ。②既存のデータ量が不足している場合は、情報の追加、内容修正等を行い、完全な書誌作りに努めていく。③利用の多い資料（学習書、文学、社会科学）から行い、同じタイトルの物は書誌を一つにまとめて検索しやすくする。	年度当初より取り組む
	図書システムの利便性を図る。	①各校（土浦・岩瀬・中等）と相互に連絡を取り、図書システム上の修正および課題箇所の共有を行う。②図書館システム業者へ課題を報告し、速やかに改善できるよう調整していく。③不具合や修正、課題改善において、業者対応が可能な部分はリモートにて実施していく。	年度当初より取り組む

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
広報（情報入試）	地域別生徒募集目標の設定	募集対象の受験生を取り巻く現状変化に対応する広報活動。広報活動重点地域の再設定を行う。特につくば市西地区（TX沿線）、水戸地区の掘り起こし。受験前に学力をみる指数・指標の検討をすすめる。	4月～5月：中学校訪問による現状調査 7月～8月：実力テストの取り扱いについて検討、個別相談内容の検討

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営（教学）	①いじめ根絶	いじめ防止対策室を中心に、講話や勉強会、学級での指導を重ね、SNS利用に対する指導は、家庭とも連携して生徒の更なる意識向上と精神的成長を促す。	年間を通して計画的に取り組む
	②国公立大学合格者数の向上	国公立大学対策室を中心に、指導法・形態の改良を重ね、新大学入試制度の改革動向を確認しながら、東京大学・筑波大学・茨城大学の合格者数の向上をめざす。	年間を通して計画的に取り組む
	③基礎学力到達度試験対策の充実	基礎学力到達度試験対策室を中心に、付属推薦制度利用による日本大学合格者数の更なる向上を目指し、学園全体の目標達成に寄与していく。	年間を通して計画的に取り組む
	④大学入試改革への対応	思考力・表現力重視の流れの中での、入試問題研究を進め、探究活動の充実やそのためのポートフォリオの充実、英語4技能評価への対応など、改革に対応すべく研究を重ねていく。	年間を通して計画的に取り組む
	⑤新学習指導要領への対応	振鈴表の確定・カリキュラム表が整った。新課程生の入学を迎え、今後の年度更新に対応できる新課程教育の運用を進めていく。	年間を通して計画的に取り組む
	⑥ICT委員会の活動推進	生徒全員のICT機器携帯に向けて、具体的な教育活動内容を想定しながら必要な対応を進めると同時に、教員への研修、モラル・マナー教育も進めていく。	年間を通して計画的に取り組む

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
管理運営 (事務)	①予算編成(配分)方法の検証	教職員が一丸となり、各教務分掌の創意工夫をもって、新たな事業への予算の確保と予算編成(配分)方法の見直しを行う。	年間を通じて実施していく。
	②教育環境の充実・維持	教育環境の充実を図り、生徒が安全で、快適かつ便利で、学校生活を送りやすいと実感する教育環境の整備を心がけていく。令和5年度は、情報設備更新等を実施していく予定である。	年間を通じて実施していく。
	③創立60周年記念事業の実施	本学園は令和5年度に創立60周年を迎えるが、記念誌の発行等を行い、いままでの歩みを検証するとともに、今後の学園の発展に必要な施策について検討する機会とする。	計画の状況を確認のうえ、実施していく。
	④諸規程の見直し	諸規程全般について、社会的な要請、学校運営の現状等にあった形で、必要に応じて改正を行い、新たな規程が必要な場合は制定する。改正・制定にあたっては、諸規程文中に、他の規程と関連しているものがないか確認を合わせて行う。	1年間継続して取り組む。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
庶務	継続性を持った取り組みと行事計画の見直し	部内の組織化を引き続き行う。適切な形で引き継ぎ作業を行い、行事や作業がその都度より良くなるための改善を施していく。コロナ禍の終息を踏まえ、オンラインの良さ対面形式の良さを取り入れた新しい時代の行事の実施方式を検討していく。	年間計画通りに実施して行く。
	防災計画の見直し	避難訓練を形骸化させずに、緊張感を伴って実施できるような工夫を行う。また、教職員に対する防災教育を実施する。具体的には、避難訓練の指導において必要な知識の共有と、日頃から生徒に伝達すべき防災意識の持たせ方についてである。オンラインでの教員研修を活用するなど検討したい。また、ICTを利用した、よりスリムな情報伝達システムの構築も考えていきたい。	年度当初より速やかに取り組む。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
総合進学コース (含スポーツクラス)	①学習指導	<p>《進学クラス》 1 学年：「予習→授業→復習」の学習サイクルを徹底させ、弱点の早期発見と克服に努めさせる。模試や定期考査の結果を分析し、個々の学習状況の把握に努める。 2 学年：授業の重要性を説き、高校生としての学習スタイル「予習→授業→復習」を早期に確立できるよう指導する。各種テスト後は、必ず振り返りをさせ、現状把握をさせるとともに、朝テストやスタディサプリを用いた課題を継続的に実施し、基礎学力の定着を図る。 3 学年：朝の時間を有効活用し、基礎学力向上に努める。定期考査や模試後に学習計画の振り返りを行い、弱点の克服と学習内容理解の深化に努める。学年と教科担当者が情報共有化を図り、生徒一人ひとりに責任をもって授業に臨む。</p> <p>《スポーツクラス》 生徒個別の学力、性格などを把握することに努め、生徒個々に応じた手厚い指導体制を、学年教員をはじめとする担任と部顧問が連携しながら構築する。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。
	②進路指導	<p>《進学クラス》 1 学年：進路適性検査や進路学習、講演会の参加を通じて、自己理解をさせることで興味関心のある学問系統を認識させ、将来の職業をふまえた文理選択ができるように指導する。 2 学年：進路適性検査などを通して、自己分析・自己理解ができるようにする。オープンキャンパスや各種講演会への積極的に参加させることで、大学への理解や興味関心を引き出し、明確な進路目標を持つように指導する。 3 学年：各種講演会には、常に目的意識を持って積極的に参加させ、進路を意識させる。一人ひとりの適性に合った進路を見出すために、志望理由書作成や二者面談の結果を学年で共有し、進路指導を行う。他大学への進学者についても学年・教科と連携し、指導する。</p> <p>《スポーツクラス》 生徒個別の学力の把握に努め、それを基にしたホームルームでの進路指導が重要となる。更に進路ガイダンスなどを利用して進路意識の高揚と準備を促していく。総合型選抜、付属推薦、日大基礎学力など、あらゆる受験への対応を図り、生徒の充実した進路実現に努める。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。
	③生徒指導	<p>《進学クラス》 1 学年：土浦日大高校の生徒としてのルールやマナーを遵守し、落ち着きのある学校生活を送れるようにする。また、「あいさつの励行」を常に意識させ、折り目正しい生活態度を養う。 2 学年：自分勝手な解釈・理解・判断せず、コミュニケーション能力を養い社会人としての振るまいができるよう指導する。学校やクラスの一員として、責任と自覚を持った行動ができるように指導する。 3 学年：周囲の状況を把握し、集団内での自分の役割を正しく理解した上で判断や行動ができるように導く。高校生および社会人としての振る舞いができるよう指導する。 《スポーツクラス》部員である前に生徒である、という意識を浸透させる。生活の乱れはプレーの乱れと心得て、挨拶、礼儀、言動など、他の生徒の模範となる運動部員であることを目指していく。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。
	④特別活動指導	<p>《進学クラス》 1 学年：学級活動をしっかりと責任をもって行うとともに、部活動や生徒会活動にも積極的に参加できるようにする。様々な場面で、他者理解に努めさせ、コミュニケーションを円滑に取れる生徒の育成をする。 2 学年：学校行事や部活動・委員会活動において、リーダーシップを発揮し、中心的な役割を担えるように指導・助言を行う。キャリアプログラムである企業インターンを通して、他者理解をはじめ、思考力・判断力・表現力の伸長に努める。 3 学年：最高学年として土浦日本大学高等学校生の一人であることを意識させ、後輩の模範となるような生活を送らせる。また、部活動と学校行事等では、主体的な行動ができ、様々な役割を担える生徒の育成に努める。</p> <p>《スポーツクラス》 学校の活性化をリードするスポーツクラスの生徒として、自覚と自主性を促していく。各種学校行事に率先して取り組み、他生徒からの信頼を受ける生徒となるよう指導していく。</p>	年間行事予定に基づいて実施する。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
特別進学コース	①学習指導	<p>育てたい生徒像に「高い英語力を身に付けた生徒」「決定的な得意科目・得意分野を持つ生徒」「大学の研究内容を理解し、その領域に合わせて研究志望を作り、語る生徒」の3点を掲げ、それを実現するための指導を行う。特に、授業においては、口頭試問・グループ学習を随時取り入れ、知識重視の一方通行的な授業にならないように教科担当者と連携をとる。また、思考のプロセスを表現できる記述力を育てるために、定期テストではそれらを問う出題を必ず行い、厳密に採点する。</p> <p>1 学年：探究型学習のインタレストラーニングを継続して導入する。また、早期に英語を集中的に取り組み機会を設定し、英語に対する意識付けを行い英語力の強化につなげる。</p> <p>2 学年：文系理系別の指導体制の開始に当たり、専門科目のスタートダッシュを図る。学年の共通目標として「英検2級全員合格」「SHクラス準1級全員合格」を掲げ、英語力の強化に努める。</p> <p>3 学年：習熟度別、分野別、志望大学別の目的や対象を明確化した効率的な課外を実施し、きめ細やかな指導を展開する。入試問題内容と得意科目をマッチングさせるとともに、苦手科目を最低限に抑え、大学入学共通テストの得点率を上げる。</p>	<p>1 学年1 学期～ 高校生として、特進コース生としての意識改革、学習スタイル構築推進</p> <p>2 学年1 学期～ 文理・志望別学習における重点項目の徹底学習を実施</p> <p>3 学年 推薦入試含めた受験計画を1学期中に整え、面談では、ゴールイメージの生徒・保護者と教員との共有を図り、最後まで努力することを確認する。</p>
	②進路指導	<p>進路における情報収集と正しい理解に努め、発信されている情報を精査し、それに対応する指導を実践していく。コロナの収束を見据え、1,2学年は大学訪問や各種講座など積極的に見学・体験させることで、大学・学問研究を展開する。また、オンラインを活用した卒業生講演会など、効率的に実施できる行事の工夫に努める。3 年次では志望理由書の作成を通して、志望大学学部学科への進学意欲を高める。また、学校推薦型入試を活用し、対象生徒に対して一般入試対策と平行して早期の推薦入試対策に取り組む。</p>	<p>1 学年 学問研究、文理選択</p> <p>2 学年 大学研究、得意科目の作成</p> <p>3 学年 志望理由書の作成、推薦指導</p>
	③生徒指導	<p>特別進学コースの生徒としての誇りを持たせて、大きな声でしっかりと挨拶ができ、社会の一員としての自覚ある言動ができるように指導していく。現在、規範から大きく逸脱する生徒はいないが、生活態度に対しては、生徒に対して遠慮や妥協は絶対にしないようにする。担任による継続的な講話・指導を通して、いじめやSNSに関する注意を繰り返し行う。また、いじめ防止の観点からも他者受容のグループワークを計画・実施する。保護者や相談室とも連携し、生徒を心理面からサポートする体制を整える。</p>	<p>SNSについては、入学直後に指導の機会を設ける。いじめにつながりそうな案件は、最優先で対処する。学年集会は定期的に開催し、指導の機会とする。</p>
	④特別活動指導	<p>体育祭や文化祭、蓼科宿泊学習などの学校行事へ積極的に取り組ませて、集団への帰属意識を確立させ、協調性や他者に対する思いやりの心を育む機会とする。コロナの収束を見据え、校外学習の機会を増やすことで協調性の育成を図る。また、インタレストラーニングの1・2 学年合同実施を活用して、学年を超えた協働的な活動でできるようにする。また、ウォーカーソン（歩く会）やビブリオバトルなど、特別進学コース独自の取り組みを通して、主体性の育成につなげていく。</p>	<p>1 年生の段階で、高校生活のリズム・ペース・習慣を整え、様々な事に前向きに取り組む姿勢を養っていく。</p>

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
グローバル・スタディ コース	①学習指導	実践的英語力・論理的思考力の基礎を構築し、社会問題に対して国際的な視野のもと解決策を英語で表現できる能力を育成する。 1学年で基礎を整え、2学年で実践し、3学年で活用できるよう、短期留学・中期留学、スピーチやディベート練習などを利用し、論理的思考力・表現力の向上を目指していく。検定試験への挑戦を奨励するとともに、ICT機器の運用法の研究をさらに進めていく。特に、実践的英語力の向上に向けて、英検準1級および1級、IELTS5.5および6.5の合格者を増やし、英語運用力の一層の強化を図る。	入学直後から意識の改革と、学習姿勢の改革に取り組む。
	②進路指導	推薦入試対策につながるよう、実践的英語力・論理的思考力を高めるとともに、一般入試にも対応できるための他教科の指導を行う。また、国際社会人講演会等の各種講演会や海外留学を通して生徒の興味関心を深め、進路選択の視野を広げる。 1年次に職業研究・学部学科研究を、2年次に入試制度研究を進め、進路選択の具体化につなげる。それらをGSコースの目指す問題解決能力につなげ、リベラルアーツ教育の徹底により、3年次では推薦入試・新課程入試に対応できる小論文記述能力や面接対応力、基礎教養に基づく見識などの充実を目指す。	総合探究・LHRに加え、各教科の授業にも協力を依頼し、年間計画を立てて進める。
	③生徒指導	日本のみならず国際社会においてリーダーになりえる規範意識を育てる。 入学直後にSNSのルールとマナーについて理解させる。互いの存在を認め合い、自分自身を理解する。GSコースの目指す理念を念頭に、個々を大切にすることを高めていく。様々な行事で互いに協力し合う中でそれらを育む。TPOに合わせた身なり・行動が取れることこそが国際人としてのマナーの第一歩であると理解させる。	総合探究・LHRに加え、コース集会も利用し、年間計画を立てて進める。
	④特別活動指導	多様なバックグラウンドをもつGSコースの生徒が学校行事や委員会、部活動に積極的に参加することで、学校全体の国際化に貢献する。学校行事、生徒会・委員会活動への積極的参加を促す。学級内では一人一役を課し、全ての生徒が学級運営に参画するホームルーム作りを行う。課外活動、部活動への参加も奨励し、活発な高校生活を目指させたい。これら実践的取り組みを有効に活用し、行動力に加え、論理的思考力・表現力の向上につなげる。	各行事に合わせ、事前・事後の指導を充実させる。

校務分掌	取組目標項目	具体的取り組み方策	取組スケジュール
情報処理	①高校・中等共用 仮想基盤の更新	令和元年度に導入した仮想基盤の保守が満了するため、機器を更新して引き続き可用性の高いシステムを維持する。CPU・ストレージ・メモリのサイジングを適切に行い導入費用を抑制するとともに、校務を止めることが無いよう詳細な計画を立て無停止での更新を行う。	4月 機器の選定 7月 仕様確定 10月 構築作業 12月 運用開始
	②タブレット端末 と校務システムの 融合	来年度から、全コース全学年でタブレット端末を活用した授業が可能になり、教員についても担任はタブレット端末を所持した状態で教室に入る事が可能になる。タブレットを利用した校務システムの開発により、毎朝の欠席者の学年主任への集約等、担任の日々の業務の効率化を推進していきたい。	5月 設計 7月 プロトタイプの作成 9月 テスト運用 11月 運用開始